

こんしゅう ことば
今週の言葉「ガリラヤ」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》マタイによる福音書 4:12-17

ち ほろ
ガリラヤ地方

ほくぶ いち ちほろ
ガリラヤはイスラエル北部の一地方で
おお みずうみ な まえ
あり、大きな湖の名前でもあります。イ
でし かつどう ば
エスと弟子たちの活動の場であり、イエ
じんせい たいはん ち ほろ す
スは人生の大半をこの地方で過ごしまし
ふくいんしょ ち ほろ な まえ
た。福音書には、この地方の名前がたく
そだ
さんでてきます。イエスが育ったナザレ
をはじめ、カナ、ナイン、ペトサイダ、
カファルナウム、ティベリアス、コラジ
ン、マグダラ、ゲネサレト、タボル山な
どがあります。

ち ほろ たいはん きゅうりょうちたい
ガリラヤ地方の大半は丘陵地帯ですが、
こ しゅうへん かいめんか
ガリラヤ湖の周辺は海面下184メートル
さが
まで下がっています。そのために、ガ
こ とつぷう ふ こと
リラヤ湖ではよく突風が吹く事があるの
また ち ほろ さんぽう た くにか こ
です。又、この地方は三方を他の国に囲
つね しんりやく きけん
まれていて、常に侵略の危険がありました。
た。

い ほろ じん
異邦人のガリラヤ

い ほろ じん よ
ガリラヤは「異邦人のガリラヤ」と呼
びと
ばれ、ユダヤにあるエルサレムの人々か

み
らよく見られていませんでした。それは
なが あいだ い ほろ じん し はい う
長い間ガリラヤが異邦人の支配を受けて
ぎやく
いたからです。それとは逆に、エルサレ
きかん いほろじん し はい う
ムはたとえある期間異邦人の支配を受け
しゅうきょう めん じち ほしゅう
たとしても、宗教の面では自治を保証さ
ひとびと じ
れていました。エルサレムの人々は、自
ぶん でんとう まも
分たちこそユダヤの伝統を守るもので、
ひとびと
ガリラヤの人々のようになまはんかな者
ちが きも つよ
と違うという気持ちが強かったようです。

ち ほろ つね い ほろ じん
しかし、ガリラヤ地方が常に異邦人の
し はい か お
支配の下に置かれていましたので、エル
ひとびと つよ みんなんしん
サレムの人々よりももっと強い民族心を
も こと じ じつ ち ほろ
持っていた事は事実です。ガリラヤ地方
みんなんぞく どりつ もと ひとびと で
からは民族の独立を求める人々が出て、
じ だい し はい しゃ こま こと
その時代の支配者を困らせる事がたびた
びありました。

イエスはこのようなガリラヤのナザレ
ひと
の人なのです。しいたげられたり、はず
ひと きも つね
かしめられたりする人の気持ちは、常に
ひと
そうされている人にしかわかりません。
ひと み
イエスがどんな人につきあわれたかを見
こと あらわ
ると、その事がよく表れています。イエ
ひと とも
スはみんなからのけものにされた人の友
あゆ
となつて、いつも歩んでいました。
ねんかん だい しゅう じつ ねん たきの
年間第3主日A年(滝野)